

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702107
法人名	株式会社 エルダサービス
事業所名	グループホーム 折尾東
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区丸尾町6番22号 (電話) 093 - 695 - 1220

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年10月23日	評価確定日	11月28日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤	2人, 常勤換算	8.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造平屋造り 1階建ての1階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 20,000円	
敷金	有(80,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,667円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳		94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古村内科循環器科クリニック / 原歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

400坪の広大な敷地にグループホーム折尾東はデイサービスと併設して建てられている。敷地の周りの花壇には季節の花が植えられており訪れる人やホームの入居者の気持ちを和ませてくれる。大通りに面しており、周囲には幼稚園・小学校・保健福祉センターなどがあり、地域との交流も盛んに行われている。また、地域の人も時々ホームに立ち寄り話をしている。中学生の1日職場体験やヘルパーの実習も受け入れている。また、市町村が行う家庭介護教室を受託し開催しており、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。グループホームの基本方針である「その人らしい生活」をホーム内だけで送ってもらうのではなく、地域の活動に参加することにより、地域の中に溶け込めるように支援するとあり、全職員で方針の実現に向けて積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は「グループホームの理念を皆から見えるところに掲げたらどうか」との助言があり、すぐに玄関に掲げ改善した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	改善点については考察し、サービスの改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は社会福祉協議会の職員・家族・入居者・地域包括支援センターの職員・民生委員の方の参加で開催している。会議では取り組み状況や活動状況の報告を行い、意見・要望などを聞き、サービスの質の向上に活かしている。家族会の報告や意見・要望なども反映させながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、職員の入れ替わりなども報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に「ご意見箱」を置いているが、苦情はなく活用されたことはない。苦情申し立ての窓口についても知らせているが活用はされていない。家族の意見や要望などは、家族の面会時に気軽に言ってもらえるように努め、運営推進会議などでも、率直に言ってもらえるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、町内会の行事には積極的に参加し、職員は地域とのつながりを高めるように努めている。町内会長の役割を担った実績がある。近くに幼稚園・小学校・保健福祉センターもあり、散歩の途中に立ち寄りたり、また、幼稚園や小学生がホームに訪れてくれることもある。近所の人や立ち寄り、話をしているなど地域との連携や交流も活発に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は「日本一の介護を提供します」を掲げ、基本方針は「利用者一人ひとりが地域の中で“自分らしく”生活するために“思いやりと気づきの精神”で支えます」と地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていく事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で毎朝のミーティング時や定例会議時に唱和し理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内会行事には積極的に参加し、職員は地域とのつながりを高めるように努めている。町内会長の役割を担った実績がある。近くに幼稚園・小学校・保健福祉センターもあり、散歩の途中に立ち寄りたり、また、地域の人が立ち寄り、話をしているなど地域との連携や交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の改善点はミーティングなどで話し合い、改善に取り組んだ。職員は評価の意義を理解しており、評価結果をサービスの改善に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組みの状況や活動状況の報告を行い、意見・要望を聞き、サービスの質の向上に活かしている。家族会の報告や意見・要望なども反映させながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、職員の入れ替わりなども報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市の担当課とは常に連絡を取り、情報を得ている。また、市の事業である「家庭介護教室」を年に2回受託するなど、積極的に行政との連携を高める努力をしている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業に関するセミナーに参加し、職員間で学習している。エルダーサービスの他のグループホームで利用者がいるので情報交換を行い、必要の人に支援できる体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態などの報告は、月に1回手紙を送り、写真を同封している。手紙は、家族からも大変喜ばれている。面会の際にも、入居者の状態は、その都度報告している。また、月に1回は居室にホームでの暮らしぶりがわかるように、アルバムを置き見ていただけるようにしている。遠方の方には電話で報告をしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご提案箱」を置いているが、苦情・不満など意見を寄せられたことがない。面会時や運営推進会議において、気軽に意見や苦情など言っていたかのように努め、家族へ働きかけている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者のダメージを考慮し、職員が離職をする場合は、じっくりと話をするようにしている。新たに職員が入ってきた場合は、入居者となじみの関係ができるまでは、他の職員がフォローする体制がある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に当たっては年齢・性別などで排除することはない。管理者は職員が生き生きと働けるよう、精神的なフォローを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権に配慮したケアを行うよう指導・教育している。管理者・職員は人権に関する研修に参加している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	定期的に内部・外部の研修に積極的参加している。職員の段階に応じた研修も積極的に受講できるように支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	エルダーサービスの他のグループホームや地域の同業者との交流・勉強会などを行っている。相互訪問をし情報交換も行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、併設のデイサービスを利用していただくなど、管理者・職員となじみの関係をつくりながら、サービスを開始するなど、徐々になじめるように工夫しており、納得して入居していただけるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者と会話の機会を多く持ち、本音と本音が感性で響き合える信頼関係を大切に、職員と入居者は、お互い学んだり、支えあう関係を日々の暮らしの中で築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族の思いや希望・意向はフェースシートに書かれており、毎日の会話の中から思いや希望・意向の把握に努めている。「気づきノート」を作り、毎日のケアや会話の中から気づいたことを書いていくようにしている。本人のライフスタイルを尊重したケアを行うよう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の要望を取り入れ、必要な関係者とケアカンファレンスを行い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じての見直しを行うと共に、入居者の状態の変化に応じて検討・見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設のデイサービスとの連携を図り、音楽鑑賞・バーベキューなど行事の際には、交流やふれあいを楽しんでもらうように柔軟な支援を行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の同意を得て、グループホームのかかりつけ医に1ヶ月に1回往診をしてもらっている。歯科は1週間に1回ホームで訪問診療が行われている。また、健康状態に問題が生じた場合には受診を行い、適切な処置が行えるよう支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ターミナルの経験はないが、重度化や終末期の方針として「終末期ケアの指針」を作成している。かかりつけ医や家族共話し合って方針を共有し、同意を得ている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応を徹底している。入居者が電話をする時は居室で子機を使い、プライバシーには十分注意を払っている。記録類は鍵のかかる収納庫に保管し、個人情報の取り扱いは他に漏らすことがないよう、業務の中で、全職員が注意をしている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的には1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。常に入居者の希望を優先し、その時の本人の気持ちを尊重しながら支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一人ひとりの好みを聞くなど、献立に活かす取り組みを行っている。職員と入居者はテーブルを囲んで、楽しく食事ができる雰囲気を作っている。入居者で食事の盛りつけや片づけができる人には、手伝ってもらっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には1週間に3回の入浴日と決めているが、希望があれば毎日でも入浴できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの能力に合わせて、食器の片づけ・掃除・洗濯物たたみなど役割をできる範囲で担っていただいている。また、趣味である手芸や好みのレクリエーション、摘んできた花を花瓶に挿すなど、入居者の生活歴や力を活かせる場面を作っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日、散歩やドライブは出かけている。季節や地域の行事など状況に応じて、柔軟に外出できるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は玄関、居室とも鍵をかけていない。鍵をかけることの弊害は職員は理解している。入居者が出かける気配がある場合は、本人に気づかれないように後ろから着いて行き、傍で見守るようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回避難訓練を行っている。夜間を想定しての訓練も行っている。入居者・職員と実施しており、地域の協力など求める必要がある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立は栄養士が立て、栄養バランスが取れた食事内容となっている。1日の食事量や水分量はチェック確保している。水分に関しては1日の量が計算できるようにしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	台所は対面式で料理の匂いや食器の音が五感を刺激し家庭的な雰囲気を漂わせ、リビング・廊下・玄関には、椅子やソファが置かれ、季節の花が飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室のスペースは広く、今まで使っていたベット・机・箆笥・椅子・テーブル・装飾品などが持ち込まれ、安心して暮らせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			